ロコモクリニック南城
デイケア南城

伊良波　朝義（有限会社 義空間設計工房）

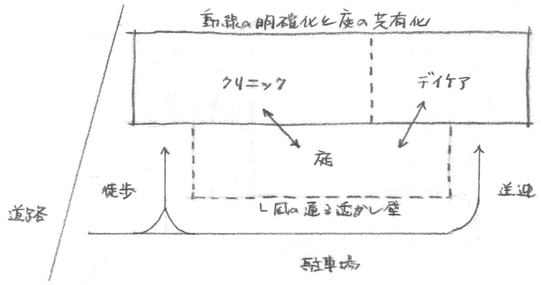
プロフィール
1990年　琉球大学工学部建設工学科　卒業
1990～'96年　(株)内井昭蔵建築設計事務所
1997年　(有)義空間設計工房　代表取締役
2014年　琉球大学工学部　非常勤講師

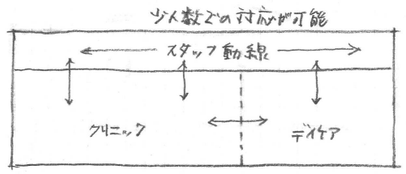
敷地は南城市玉城の船越小学校にほど近い場所にあり、低層住宅が点在するのどかな地域に位置する。敷地周辺は高い建物が少なく比較的フラットな環境である為、周囲に対して威圧感のない、高さを抑えた平屋建ての計画とした。

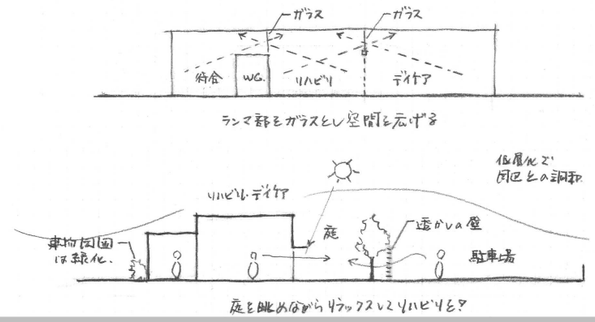
地域住民が気軽に安心して相談できる“かかりつけ医”として、地域と共同していくクリニックの基本方針やロコモティブシンドローム(運動器症候群)の予防に力を入れていることより、気軽に訪れやすく、心地良くリハビリできるアットホームな雰囲気づくりを目指した。

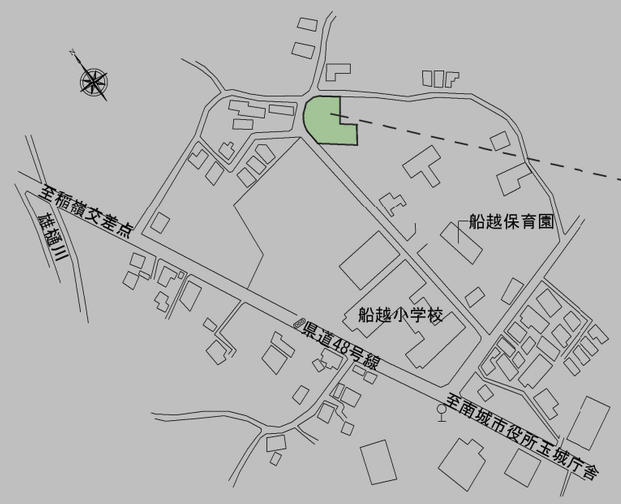
施設の構成は、整形外科、リハビリテーション科、内科を診療科目とするクリニックと、デイケア施設が併設する。用途が二つに分かれるためクリニック側は徒歩や車でアクセスしやすいように道路側へエントランスを、デイケアは送迎がメインとなるため奥側へエントランスを設けた。またクリニックとデイケア間を容易に行き来できるスタッフ動線とし、スタッフの連携が図りやすい配置計画としている。

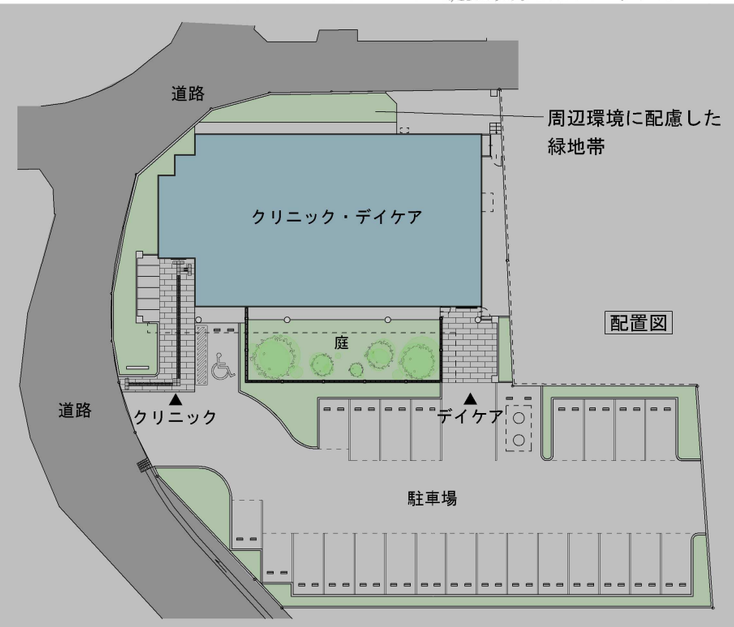
内部空間は、自然光をふんだんに取り入れた明るい環境を目指し、駐車場との間に花ブロックでやさしく囲んだ庭を設け、外部からの視線をさえぎりながら、自然光を取り込むことを可能とした。また室同士の間仕切り壁上部を透過性のあるガラスとして空間に広がりを与え、温かみのある木調の建材を使用する等、安らぎを与える空間づくりを目指した。地域と共存していくクリニックとして、やさしく人々を迎え入れ、温かく寄り添う建築となることを願っている。









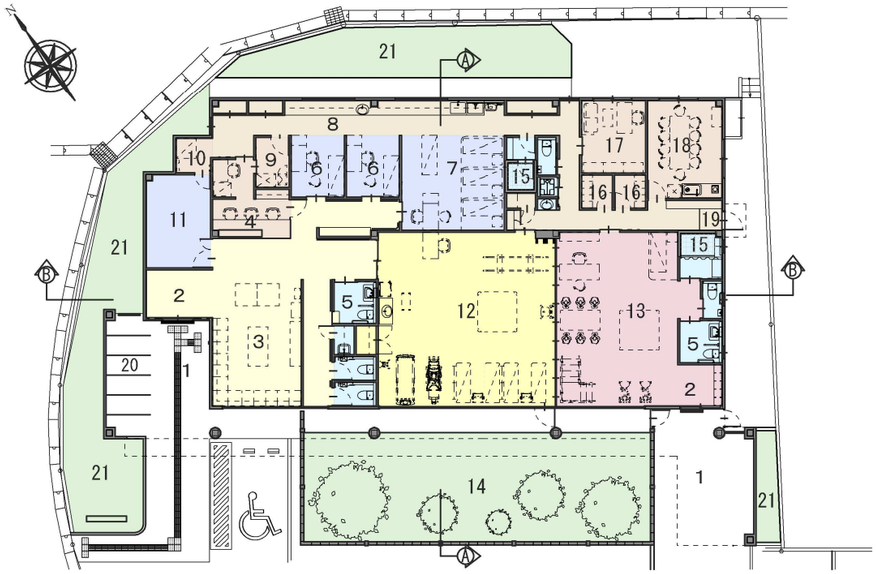


建物を長手方向へ貫く庇は、待合室、リハビリ室、デイケア室へ連続する開口への直射日光を遮る役割を担う。

夕景。建物や外灯の明かりを抑え、低層住宅地に馴染む計画とした。

手前はデイケア室、奥はリハビリ室。普段はパテーションで仕切り、それぞれ別の機能を持った空間として使用するが、学会などの際には一つの大きな空間として利用することが可能。

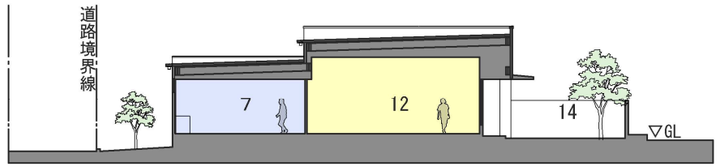
外部から内部へ連続する花ブロックの壁はトイレと待合室を緩やかに分ける。トイレの高さを抑え待合室とリハビリ室の天井が連続するように壁上部をガラスとしている。



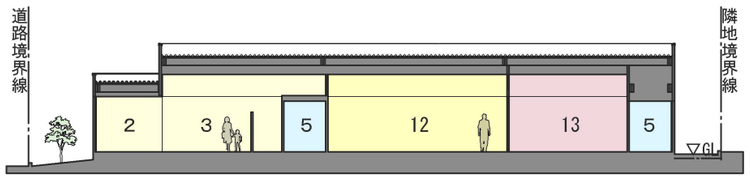
平面図

床材や建具は住宅で使用する木調の材料とし、ぬくもりのある空間とした。室を区切る壁の上部を透過性のあるガラスとし、空間に広がりを与える工夫をしている。

診察室。奥はクリニックとデイケアをつなぐスタッフ通路となっている。



A　断面図



B　断面図

医療を水、患者さんを植物の葉に置き換えてデザインされたロゴマーク。クリニックの名前の由来になったロコモティブシンドロームは身体の移動機能低下により将来要介護のリスクのある状態を指し、継続的な加療が必要な症状で、地域に根差すかかりつけ医として、なくてはならない水のような存在を目指す思いが込められている。

＜建築概要＞

用途地域	：未指定地域	建ぺい率	：28.26%
主要用途	：診療所 （患者の収容施設無し）	許容建ぺい率	：70%
		容積率	：26.58%
工事項目	：新築工事	許容容積率	：200%
構造・規模	：鉄骨造・平屋建て	建築面積	：420.45㎡(127.2坪)
敷地面積	：1,487.76㎡(450.0坪)	延床面積	：395.39㎡(119.6坪)

1. ポーチ
2. エントランス
3. 待合室
4. 受付
5. 多目的トイレ
6. 診察室
7. 処置室
8. スタッフ通路
9. 調剤室
10. 操作室
11. レントゲン室
12. リハビリ室
13. デイケア室
14. 庭
15. シャワー室
16. ロッカー
17. 院長室
18. スタッフ室
19. 職員出入口
20. 駐輪場
21. 緑地帯